

雪崩災害防止功労者表彰式及び雪崩災害防止セミナーの開催

雪崩災害に対する防災意識の向上を図るため、平成29年1月16日、青森市において、「雪崩防災週間」の活動の一環として「雪崩災害防止功労者表彰式及び雪崩災害防止セミナー」が開催され、雪崩事業に関わる県内外の行政担当者、民間コンサルタント技術者など約130名が出席しました。

雪崩災害防止功労者表彰式では、元(国研)土木研究所雪崩・地すべり研究センター専門研究員 故 池田慎二氏とニセコ雪崩調査所所長 新谷暁生氏の二名が表彰されました。



故 池田慎二氏：代理(国研)土木研究所
上席研究員 石田 孝司氏



新谷 暁生氏

雪崩災害防止セミナーでは、北海道教育大学札幌校教授 尾関俊浩氏による「青森・北海道における近年の雪崩災害」と題しての基調講演のほか、雪崩災害防止功労者(新谷暁生氏)、青森県、(国研)土木研究所雪崩・地すべり研究センターから話題提供がありました。



基調講演 北海道教育大学 尾関教授



セミナー会場の様子

編集・発行 青森県河川砂防課

〒030-8570 青森市長島1-1-1 青森県河川砂防課内 TEL017-734-9670/FAX017-734-8191

河川砂防課ホームページ：<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/kasensabo/>

E-mail：kasensabo@pref.aomori.lg.jp

第33号 砂防トピックス 青森

青森県河川砂防課 編集・発行(平成29年2月)

東北管内初となる、水害・土砂災害への備えに関する 要配慮者利用施設の管理者向け説明会を青森県内の3都市で開催

平成28年8月の台風第10号では、岩手県の小本川が氾濫し、岩泉町の高齢者施設で9名が亡くなるという痛ましい災害が発生しました。

このため、国土交通省、厚生労働省、各自治体が連携して、全国の要配慮者利用施設の管理者に対して、河川砂防情報等に関する理解を深めていただくための説明会を開催することとなりました。青森県では、全県3、644施設を対象に東北管内で初となる説明会を県内3会場において開催しました。



【参加人数】

青森会場(12月13日) 307名(215施設)

弘前会場(12月20日) 288名(196施設)

八戸会場(12月21日) 363名(246施設)

国土交通省東北地方整備局地域河川課 福田建設専門官からは、動画を使用しながら、土砂災害(土石流、がけ崩れ、地すべり)の現象をわかりやすく紹介したうえで、危険な場所を把握すること、また避難場所・避難するタイミングについて説明がありました。



福田建設専門官の説明状況

青森県県土整備部河川砂防課 櫻川主査からは、県が独自にHPで公表している土砂災害計画区域等マップ、土砂災害危険度情報、土砂災害警戒情報メール通知サービス等について紹介しました。

その他、気象庁からは防災気象情報の活用について、県健康福祉部からは、社会福祉施設等における利用者の安全確保について、また県危機管理局からは避難勧告等発令時の行動について説明がありました。



櫻川主査の説明状況

平成28年度 土砂災害防止講演会

平成28年6月24日、青森市において「土砂災害防止講演会」を開催し、国や県、市町村、砂防ボランティア協会、青森県建設業関係者など、約270名が出席しました。当講演会は、近年多発する土砂災害に対する防災及び気象情報に関する知識向上を目的としており、今回は国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防計画課長補佐の石尾浩市氏に「砂防行政に関する最近の話題」、三陸ジオパーク上席ジオパーク推進員で内閣府火山エキスパートの杉本伸一氏に「噴火災害の教訓と日頃の取り組み」と題して講演をしていただきました。



石尾 浩市氏の講演



杉本 伸一氏の講演

川の防災安全教室、雪崩防災教室の開催

川の防災安全教室

近年、気候変動に伴いゲリラ豪雨が多発し、全国では毎年大規模な災害が発生しています。

青森県では、平成26年度より、川の防災と土砂災害の防止に関する知識の習得及び防災意識の向上を図ることを目的に「川の防災安全教室」を開催しています。

今年度は7月19日に中泊町立小泊小学校で開催し、砂防模型による説明では、砂防施設の仕組みを楽しみながら理解することができ小学生に大反響でした。



雪崩防災教室

青森県では、毎年12月1日から7日までの「雪崩防災週間」に、雪崩災害に対する基礎知識の習得と防災意識の向上を図る目的で、県内の小中学校を対象に「雪崩防災教室」を開催しています。

今年度は12月1日にむつ市立大平小学校で開催。生徒から、「身近に雪崩危険箇所がある事がわかり、大変勉強になりました」とうれしい感想をいただきました。



鳶川地すべり対策事業概成

鳶川地すべりは、砂防施設及び国道103号に変状が確認されたことを受け、平成18年に地すべりによる砂防施設の災害復旧事業及び災害関連緊急地すべり対策事業として採択されました。当地すべりは、十和田八幡平国立公園内に位置しており、希少動植物の生活の場となっている環境を保全する必要があることから、学識経験者の意見聴取を行いながら事業を進めてきました。

地すべり活動については、予定されていた対策工がすべて完了し、定期観測の結果からも顕著な動きは確認されず、沈静化しています。

本年度、対策工の効果について最終評価を実施するため、地すべり対策・環境に対して造詣の深い学識経験者から構成される「鳶川区域地すべり対策検討委員会」を設置し検討した結果、概成との判断に至りました。



検討委員会の状況
写真中央奥が委員長：弘前大学 檜垣教授

砂防ボランティアによる活動

青森県砂防ボランティア協会（加藤清和代表）では、下記の活動を行いました。



① 滝ノ沢砂防ふるさと愛ランド（中泊町）では、小学生によるヤマメの稚魚放流（6月）



② 蔵助沢（弘前市）では、砂防施設周辺の清掃や草刈り・施設の安全点検（7月）



③ 滝ノ沢川（外ヶ浜町）では、イワナの産卵床づくりと施設の維持管理（9月）



④ 鳶川（十和田市）では、あおもりの川を愛する会と合同で清掃活動（9月）